

市長から発言の申出がっておりますので、これを許可します。市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほどの船越議員への答弁の中で、文化財指定の状況の中で、国選択の無形文化財7件が抜けておりましたので、訂正をさせていただきたいと思います。

合計「195件」と申しましたけども、合わせて合計の「202件」でございます。どうも申し訳ございません。

○議長（初村 久藏君） 引き続き、市政一般質問を行います。13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 皆様、大変お疲れさまです。会派對政会で活動しております波田政和でございます。

先般行われました対馬市議会議員一般選挙におきまして、市民の皆様から多くの信託を受けまして、市議会末席の使命を与えていただきましたことに対し、即戦力をもってお答えをお伝えできますよう頑張っております。

それと同時に、この場に立たせていただきましたことに対し、改めて身の引き締まる思いであります。本当にありがとうございました。

今回は、選挙期間中、多くの市民の皆様から賜りました貴重な御意見を中心に集約し、お尋ねをしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。開かれた議会での議会改革と政策提案をもってお答えする覚悟でございます。

市民と行政をつなぐパイプ役として私を使っただき、官民一体となり、住みやすい持続可能なしまづくりを目指し、共に進んでいこうではありませんか。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、通告をしております課題につきまして、市長の支持者の方にも御理解と納得がいただける気持ちでの御答弁であることを期待し、質問をいたします。

まず、1点目であります。危機管理体制についてであります。危機管理で最も重要な防災拠点施設の整備についてであります。過去にも1度取り上げていることから、市長もその重要性は御認識なされていると思います。

しかしながら、時の経過とともに、状況や考え方も変化が起きているのではと思っております。今さら申すまでもございませぬが、災害はいつ起こるか分からず、忘れた頃にやってくると思っております。いざというとき、危機管理機構に問題があれば、市民の生命、財産を守る行動に遅れが生じることが懸念されます。

現在、厳原庁舎内に設置されています地域安全防災室が、防災拠点として耐震不適格との見解が出されましたことは、皆様も既に御承知とは存じますが、不適格の結果が出て、既に2年が経過し、いまだに方向性が見えてこないことから、再度、防災拠点の在り方や今後のスケジュール等についてお尋ねしたいと思っております。

次に、暫定本庁舎に設置してある防災室について、過去の市長の答弁の流れについての再確認ですが、市長は防災拠点としての意義について、熊本の宇土市市役所庁舎の教訓を例に挙げ、災害対策本部が設置される本庁舎の耐震性は地震地以外でも重要視されており、本市の暫定本庁舎である巖原庁舎は老朽化も進み、耐震性も懸念されているため、将来の本庁舎となる場合は、当然、耐震性を確保すべき、この本庁舎の問題というのは、市民にとりましても大変重要な問題であると認識していると。

それと、令和元年の6月議会では、巖原庁舎について、新耐震基準の指摘を下回っており、耐震強度が必要であるとの調査結果であり、同庁舎は防災拠点としての位置づけからも、その指標も高く、早々内部検討会を招集し、様々な課題の分析が必要であり、調査・設計を委託することも必要であるとの意見を集約されておりました。

今後、議会の意見も聞きながら、市民参画の検討会など設置の必要性につきましても早急に検討し、財源についても、市民そして議会を巻き込んだ中で、早い段階で動いていきたいというふうに思っているとの御答弁でございましたが、お考えは定まりましたでしょうか。

この御答弁から2年が経過し、現在どこまで進展しているのか、市長のお考えを再度お尋ねしたいと思っております。

次に、2つ目の世界的な流行で、コロナ対策や危機管理機能の進化が問われる中で、本市の取組についてであります。私は少し角度を変えての質疑となります。

皆様も御承知のとおり、2020年1月に日本で初めて新型コロナウイルス感染症が確認され、はや1年6か月以上が経過しようとしております。

これまで日本のみならず、世界的にも経済に大打撃を与えた新型コロナ感染症ですが、本市においては、韓国問題から外国人観光客がほぼゼロとなり、国内観光客に力を入れた矢先、新型コロナ感染症が蔓延し、本市の経済状況は下降の一途を進んでいるように思えてなりません。

当初は、国、県または本市単独での助成制度や補助制度がありましたが、これだけ長期にわたり自粛ムードが続くと、1度や2度だけの支援では、到底経済を持続することが難しいと感じております。

特に本市のような離島の現状では、島外からの交流人口の拡大が見込めない中、対馬経済を守るには、島内消費を増大させるほかにはないと思っております。

このたびの議会での補正予算では、宿泊・乗り合い・飲食業への支援策がなされているようですが、その詳細を見ますと、支援策が薄く、経済対策に効果が出るのかが疑問であります。

また、ほかの業種・産業から見ますと、平等性に欠けているのではないかと感じております。

基本的に対馬の経済を支えているのは、一人一人の市民であり、自己責任・自己決定で事業展開がなされている以上、リスクは避けられなく、経済の破綻とは別のものと私は認識して

おります。

私は、一人一人に活力がつけば、おのずと問題が開けていくと感じていることから、幅広く対馬経済が循環ができるような施策を望むものであり、今後、市長にどのようなお考えがあるかも併せて御答弁をお願いします。

次に、3点目でございますけども、厳原小学校の老朽化に伴う整備計画についてですが、校舎の老朽化が進み、安全で快適な環境とは程遠いと感じておりますが、今後の老朽化対策及び学校整備計画方向性について、教育行政からの視点で見解を教育長に、行財政の視点から市長に聞きたいと思っております。

言うまでもありませんが、厳原小学校は本市でも最も古い建物であり、これまで多くの歴史を築き、優秀な人材輩出の学びやであったと思われまます。

また、近年進む学校統合や、統合に伴う地域学校の廃校など、やむなき事情は察しますが、割と新しい学校の廃校が多過ぎると感じているところでもあります。

将来を見据えた政治判断ができなかったものなのか、いま一度考えるときだと思われることから、最優先で取り組む課題と捉え、今後の方向性についてお伺いします。

以上、大きく2点について、教育長と市長の見解と御答弁をお願いしまして、後ほど御提案も兼ねて再質問させていただきますので、よろしくをお願いします。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 答弁の流れ上、私のほうが先に答弁をさせていただきます。

厳原小学校の老朽化に伴う整備計画についての質問にお答えいたします。

まず、厳原小学校校舎は昭和38年の建築後、58年が経過し、市内で最も古い校舎となっております。

また、現校舎は外廊下ということもあり、雨天時には、児童、教職員はもとより、訪問される皆様にも御不便をおかけしている状況でございます。

したがいまして、教育委員会としましては、市内教育施設整備における最重要課題として認識しており、改築を含め、どのような対応ができるか協議をしているところでございます。

いずれにしましても、事業には多額の経費を要するため、国庫補助が不可欠であり、現校舎の状態把握と、どの補助メニューが活用できるか検討するため、今年度耐力度調査を実施します。その結果を基に方向性を決定し、基本設計、実施設計を進めるよう計画をしております。

次に、市内における老朽化学校の整備についてですが、学校適正規模、適正配置を目指し、本年度から10年間の新たな統合推進計画を策定しました。今後の児童生徒数の推移見込みから、子供たちの教育環境の基本となる適正な児童生徒数の確保ができるよう計画を策定しましたが、実施には地域の皆様の御理解が必要であるため、十分な協議期間を設けていきたいと考えており

ます。

一方、施設に目を向けていきますと、現在、市内の小中学校30校のうち、建築後50年を経過しているものが4校、40年を経過しているものが7校、30年を経過しているものが13校、30年以下のものが6校であります。

近年、学校施設整備については、条件にもよりますが、耐用年数80年を目指した長寿命化事業を推進する動きになっており、予防改修事業も補助メニューに加えられております。

今後は、単に建て替えだけでなく、各校舎の状況に応じ、早めの長寿命化対策を行うなど、少ない経費でより効果的な事業展開を図っていくことも、施設整備における一つの方法だと考えております。

以上のことから、学校統合計画と施設整備の双方の観点から、今後の施設整備の計画を進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 波田議員の質問にお答えいたします。

まず、1点目の危機管理体制についてのうち、防災拠点整備については、現在、災害時に災害対策本部を巖原庁舎に設置しております。その防災活動の拠点となる巖原庁舎は、新耐震基準の指標を下回っているため、防災拠点として適してはおりません。

現在、巖原庁舎整備等に係る内部検討会議を設置し、巖原庁舎の建て替え工事等の対応方針を検討しており、その検討会の中で、防災拠点の機能について協議しております。まだ時間がかかっておりますけれども、もうしばらくお待ちをいただきたいというふうに思います。

なお、災害が発生し、巖原庁舎での業務ができなくなった場合、これは防災拠点としての代替庁舎は消防本部を予定しておりまして、災害発生時には、災害対策本部を設置し、災害応急対策や避難所等への指示などの対応を行います。

2点目の新型コロナウイルス感染症対策につきましては、現在まで市内で34例の感染者が確認されております。市内の感染状況は、島外由来の感染や職場内感染及び飲食店でのクラスターにより、感染が拡大した事例がございます。

このような感染者が確認された場合の初動体制として、市民の皆様に対し、感染状況によって、私自らCATVで感染予防対策をお願いし、さらに市ホームページやSNS、防災行政無線を活用し、感染予防の周知啓発を実施しております。

感染者の情報提供の在り方については、私から県に依頼しましたが、県内発生の新型コロナウイルス感染症の公表基準により、県から発表しており、現在の周知方法となっております。

また、市と保健所、医療機関等との情報共有がスムーズに行えるよう、連絡体制を整えており

ます。

なお、新たな対応策としまして、一旦、県の公表基準の範囲の中で、県が発表した内容について、追加して市民にお伝えできる情報について提供できるよう、協議を進めております。

また、検査や医療提供体制の確保などの検査・治療対応は、県が主な役割を担っており、市は感染予防対応、ワクチン接種、県の対策への連携が主な役割になると認識しております。

現在、検査体制については、指定病院で1日40人程度のPCR検査ができる体制を整えており、医療提供体制については、指定病院に最大25床の療養病床を確保し、宿泊療養体制については、市内に最大26床が確保されております。

また、長崎県において、次の感染拡大に備えた医療提供体制に関する検討もなされており、引き続き、市の立場から県と保健所へ支援協力を行ってまいります。

さらに、ワクチンの接種が一定の発症予防効果や重症化を予防する効果が示されているため、新型コロナウイルス感染症に対する市の最重要施策として、接種体制を整備し、市職員が一丸となり、早期接種完了に向け、努力してまいります。

次に、2点目の厳原小学校の老朽化に伴う整備計画について、財政面の観点からお答えをいたします。

学校施設整備につきましては、国庫補助金のほか、学校教育施設等整備事業債の活用を考えております。その充当率は、補助事業や単独事業、新築や大規模改造といった事業内容によりまして、75%もしくは90%となっております。

また、その償還に係る交付税措置が、こちらも事業内容によりますが、国庫補助事業であれば、30%から70%でございます。少しでも有利な国庫補助金や地方債を活用し、本市の負担を極力抑えつつ、必要な整備を計画的に実施してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。

それでは、再質問は教育長からということになります。

先ほども申しますように、実現してほしいという話ではなく、選択肢の一つとしても、私なりの御提案がありますので、耳だけを傾けておってください。

ただいま市長の財政の面からと教育長の現在の姿は理解してあるという話で、私は理解しておりますが、やはり一番の問題は、老朽化に伴う整備にかかる予算の確保ということではないかなと思います。

また、新築で建設するとなれば、多額の予算と長期間における工期の問題云々あるわけですが、近年における島内の人口流動から考えた場合、児童の数も減少することが予想される

ことから、その費用対効果も検討する必要があるのではないのでしょうか。

そこで、私なりの提案でございますけども、同じ校区での中学と小学校の間に、小中一貫校の導入などの検討とかできないものなのかということをお尋ねしたいわけでございます。

過去にも、そういった検討はなされているかもしれませんが、こういう時代になれば、将来を見据えて、ある程度は大胆な取組も必要ではないかなと、私なりに思っております。

本市においても、老朽化に伴う建て替えなり、統合合併なりが避けて通るわけいかないこの時代になったときに、私から言わせると、教育行政に携わる方の迅速な御英断と決断ではないかなと思っております。

先ほどから何人も議員も人口推移の話もしてありましたけども、そうやっていくと、やっぱりどの段階かで、ある程度の見据えた行動は、政治力に跳ね返ってくるんじゃないかなというような思いもしておりますので、検討の余地があるなら、私が言います小中一貫校などの考え方を改めて考えていただければ幸いかなと思っております。

その中でも、いろいろ仕組みがややこしいことは分かっておりますけども、それはそれなりの考え方で、できることがあるやもしれませんので、また教育長、そこも一つ視野に入れて考えていただきたいと。何かありましたら、よろしく申し上げます。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 義務教育9年間を見通した教育というのは、私は非常に大事なことだなというふうに思っておりますし、それを成すための小中一貫校、これも考えられるわけですがけれども、対馬市の場合に、校舎建築との関連がありますので、建て替えの時期と場所、これによっては小中一貫校も考えられるかな、いうふうにも思っております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。

今、御説明がありますように、可能性はないわけでもない。生涯、冒頭に小学校の話をなぜしたかという、あれ以上快適になるためには、残すと新築か、どっか移転するかしかないじゃないですか。

それを考えたときに、財政面から市長に尋ねたのは、もっと先を見て、大胆に言えば、巖原中学校と一緒にしたらどうやろうかと。そういう考えもなきにしもあらずかなというような気持ちもありましたので、お尋ねしました。

この辺は現実味があるかどうかは別としまして、いつも財政の面から、いろんな特に障害が出るじゃないですか。財政出動が少なくて快適になる方法も一つの選択肢かなと思うところからお尋ねしておりますので、このとこ、どうですかね。教育長、もう一度。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 巖原小学校と巖原中学校の小中一貫校ですけれども、巖原中学校に持っていくには、教室の数が足りませんし、敷地も足りないんじゃないかなというふうに思います。  
だから、ちょっと今の段階では、巖原小中学校の小中一貫校は考えにくいんじゃないかな、いうふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 分かりました。今の段階では考えにくいかも分かりませんが、考え方次第では、またどうかなるかも分からないという解釈でよろしいでしょうか。

こう言いますのも、快適な環境を与えるためには、いろんなこともクリアをしてやるのが大人の社会じゃないかなと思っておりますので、ならぬことをならしていくのも政治の力でございしますので、そこを踏まえまして、よろしく願いしときます。

それでは、学校問題はこれぐらいにしときます。

続きまして、コロナ対策について市長にお尋ねしたいと思います。

これは何人の議員も、この手の話はしてありますので、私からあえて、対馬市の取組を云々という気持ちはございません。決して、内容そのものは、しっかり啓発活動をしていただきながら、住民の方々に徹底してあるということは理解しております。

ただし、こういう経済状況になったときに、対馬市は三十数例出ましたけども、近隣、全国並みの規制をかけながらの、大変苦しい目に遭うとるちいうのは事実ですよ。

私がここで皆さんと意見が違う話ししたのは、いずれにしても自己責任でございしますので、だから自分で自分の身を守るというて、皆さんマスクをかけて、みんなと距離を置くと思うんですよ。そういう中で、先ほどから話がありますように、最大限のものを、1人の人が満足するようなことができるならば、全体が潤うと思っています。

その辺も踏まえまして、大胆な予算を打ち込んでやるという方法も一つの選択肢だということも、私も認識しましたので、また市長もここは、この不況を比田勝の尚喜が、何が何でもやるんだという気持ちになっていただければいいのかなと思っておりますので、この件はこれぐらいにしておきます。

それと、最後の3つ目でございますが、巖原庁舎について再度確認しますが、私は防災拠点として、先ほどから説明がありましたが、2年もこの話が出て放っておくという状況を、私なり、それなりに分析しておりますが、先ほど市長の話では、消防本部にでも、そういう緊急の場合は移してやるんだという話を、今日お聞きました。

それなら、最初から移してくださいよ、今の段階で。この話は何年もかけてしているじゃないですか。

その後、いろんなほかの施設の絡みの話もあると思いますけども、私が最初の話しますよ

うに、防災拠点としてノーが出た以上は、すぐにでも移して、機能が発揮できる体制を取るのが普通じゃないんですか。それを、後に出ます、庁舎との絡みがあって云々と言っていますが、まだまだ市長は前回の段階でも、どこにどうする話はしておりませんし、そうでしょ。

そういった中から、まず、私は前回も巖原庁舎に関しての話を最初していると思うんですよ。

だから、巖原庁舎に暫定的にある拠点を移すべきであるということを今日確認したいんですが、いかがですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 災害時には、災害時と申しまして、今の巖原庁舎が使えなくなったような際を想定をしております。

ただし、巖原庁舎から災害本部を消防本部に設置したときには、県との情報共有システムや防災行政無線設備は、もう消防本部のほうにも設置しておりますけども、ただ、Jアラートの放送設備が消防本部のほうには設置されていないということで、このことも整備をする必要があろうかというふうに思っております。

それで、特に、これ地域安全防災室を消防本部のほうに移すという件につきましては、もう少し内部のほうでも検討をさせていただきたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 分かりました。

市長、先ほどから言いますように、地域安全防災室が置かれているところが不適格であるということとは認識してあるわけですね。

おのずと答え出るじゃないですか、そしたら。そういうところで防災をはじめ、皆さんの財産を守れというのも変な話じゃないんですか。

だから、私が言っているのは、今いろんな整備もしなくちゃいけないのがあるから、早々にはいかないんだという話をしてあると思うんですけども、だから、すりゃいいじゃないですかということを行っているんです。日にちがたっていますからね。

暫定本庁舎に、将来的にはという考えが仮にあったとしても、いつになるか分からん話ですか、それは。ですね。

しかし、災害というのは、いつ起こるか分からない。ということは、前々の御用心で、先にやるのは市長の仕事じゃないかなと思っておりますし、皆さんもそれで安心すると思います。

やっぱり私の考えなんですけど、こういうのはやっぱり消防本部にあるべきものかなと。連動しているわけですからね。その辺を考えたときには、やっぱり皆さんが安心して毎日を過ごせる方法を取ってやるべきじゃないかなと思っておりますが、いかがですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。



○市長（比田勝尚喜君） 確かに波田議員おっしゃられるように、地域安全防災室といたしましては、消防本部と緊密な連携を取っていくことが理想かというふうに考えられますので、このことにつきましては、先ほど申しましたように、もう少し内部のほうで検討をさせていただきたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） それでは、ちょっと関連になりますので、尋ねときますが、今まで厳原庁舎の話をしておりましたね。先ほど、さきの議員の答えで、市長も将来的には庁舎の建設も考えとるみたいな話をなされてありましたが、本庁舎ができちゃ、そこに地域安全防災室が移るとするのは常識と私も思っております。

そういう中で、さきの議会で市長は、建設へ向けて基金を募っておるという話はなされておりますよね。それは皆さんも理解しておると思うんですが。

ただし、どこに造るかも分からず、どうなるかも分からんものに基金をただ募っていますとは、あまりにも具体性がないんじゃないかなかなと思っております。

そういった意味で、議会も巻き込んでという御答弁もなされてありますので、早くその辺も含んで、一步前進ができないものなのか。なぜなら、基金が募るとは約束しましたが、どうなってどうなっていくか、スケジュールが全く分からない。目的のないものに基金をしているんですよと言っているようなもんやないですか。

だから、この辺を具体的に、検討委員会でも早々立ち上げられて、次のステップアップしていく話に、そろそろどうですか、市長。お答えをお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 確かに、今現在、まだまだロードマップを示せるような状況になっておりません。

そこで、まず内部の検討会議のほうの充実もそうでありますけども、今後、市民、そして議会のほうへも、その御相談をお願いしながら、私も現在、第2期の終わりまでには、その方向性をきちんと市民の皆様へ、場所やら分庁方式、そしてまた集中方式、そこら辺を併せてお示しをしていくように、今後努力をしていきたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 前回より大分進んだ答弁だったみたいでございますので、安心しました。

あと任期は残すところで、方向性だけは出したいと。それ、前回もその話触ったような気がしましたがけども、考え方は理解しております。

ただし、日にちも、すぐ1年、2年たつんですよ。だから、どっからか始めてくださいという

ことを今日お願いしたくて、こういう話をしております。

まとめますと、地域安全防災室は揺るがない場所に早急に持っていくということを約束してくださいよ。それと建設は別の話でございますので。そうしかんと、生命、財産を守るという理屈からいっても、なかなか遅いんじゃないかなと思っております。

それと同時に、今まで話して、これあったことは、まとめとして方向性は出していくんだという御回答でございますので、タイムスケジュールなんかをしっかりと共通の認識の下、やっていけたらありがたいなと思っておりますので、今後ともよろしくお願いしときます。何かありますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） このことにつきましては、議員もおっしゃられるように、なかなか徹原の町自体が、例えば庁舎等を建設するとした場合の用地の取得とか、今、災害ハザードマップが示されておりますけども、結構市街地辺り、そういった対象地が多いというような中で、その選定等に当たっては、十分な協議を踏まえていく必要があるかというふうに思いますので、このことにつきましては、慎重に検討を重ねてまいりたいということで、今後とも、どうぞご指導方よろしくお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） それでは、取り留めのない話を教育長にも市長にもしましたけども、いろんな考え方があるんだということを認識していただきながら、私の一般質問を終わりますが、またこの件につきましては、私も任期がまだ始まったばかりですので、また数回話すかもしれません。よろしくお願いしときます。

以上です。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、波田政和君の質問は終わりました。

---

○議長（初村 久藏君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問を終わりました。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後2時46分散会

---